

2008年(平成20年)3月期
決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社
2008年5月15日

目次

- * 2008年3月期決算概況および2009年3月期業績見通し
- * 中期経営計画「WIT2008」最終年度へ向けて
- * シャープ「21世紀型コンビナート」への進出
～ 製造機能と商社機能の融合モデル～

2008年3月期の決算概況

連結決算の概況

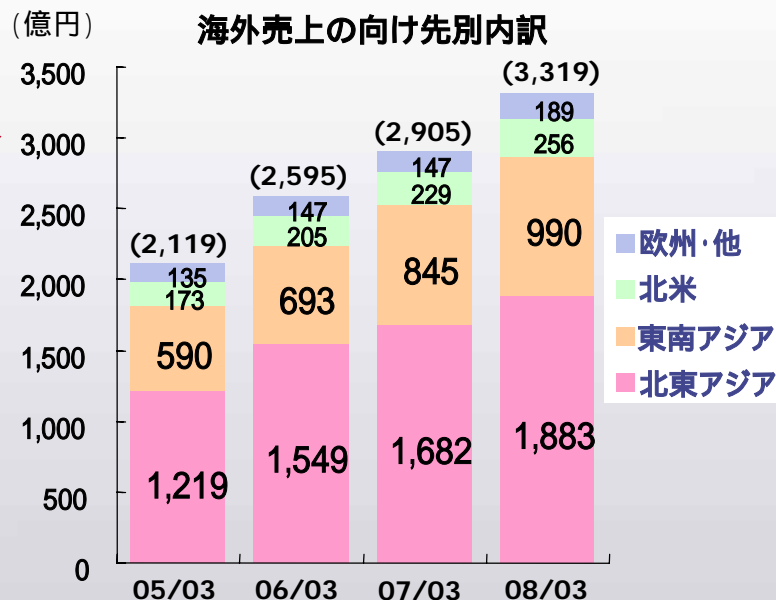
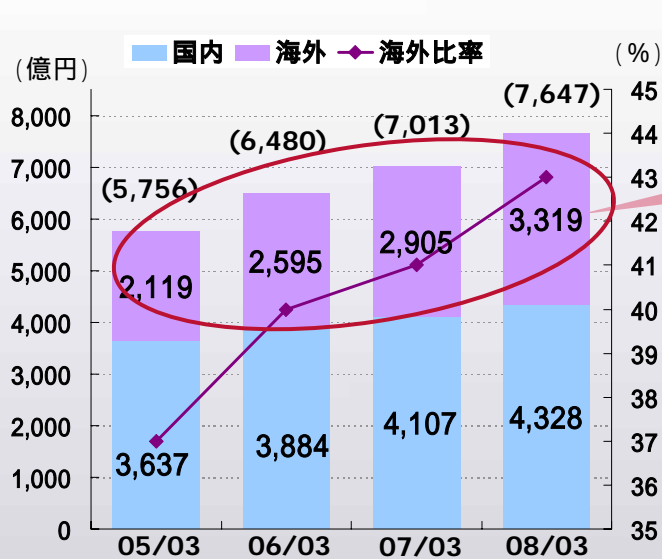
◆2008年3月期決算概要

9.0%増収、6.9%経常増益ながら、特別損失の計上により、当期利益は26.3%減 (単位:億円)

	08 / 03	07 / 03	増 減	前年比	(参考) 2008年3月 中間期時点見通し
売上高	7,647	7,013	+ 634	109%	7,520
売上総利益	805	736	+ 68	109%	795
販売管理費 (うち年金数理計算上の差異-)	574 (2)	519 (17)	+ 54 (18)	110%	
営業利益	230	216	+ 13	106%	219
上記 の償却を除く営業利益	(232)	(199)	(+ 32)	(117%)	
経常利益	248	232	+ 15	106%	236
当期純利益	100	135	35	73%	71
1株当り当期純利益	77円86銭	105円85銭			

地域(国内・海外)別売上高

◆売上高 7,647億円 前年比 634億円増加(うち海外売上414億円増加)



すべての地域で売上成長を達成、海外比率が41%から43%へ上昇

1) 北東アジア(グレーターチャイナ)

- ・中国・華南地域の化成品及び、自動車関連の合成樹脂拡大
- ・香港・上海地域のプリンター・複写機など電子機器用途の合成樹脂の伸張

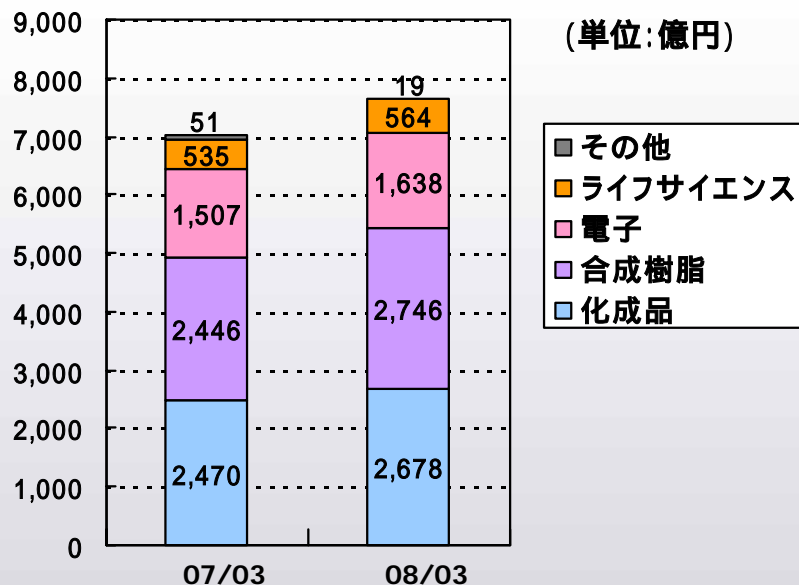
2) 東南アジア(アセアン)

- ・プリンター・複写機など精密機器・電子機器用途や、自動車関連用途の合成樹脂が好調

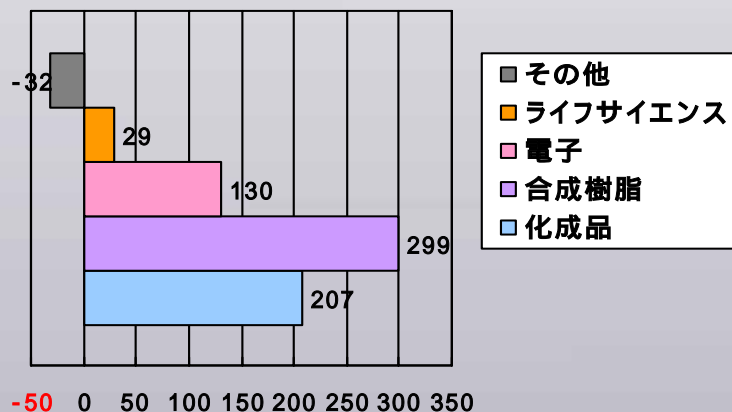
3) 北米、欧州・ほか

- ・自動車関連用途及び、医薬品原料・中間体の販売が堅調

事業セグメント別売上高



売上高のセグメント別増減内訳

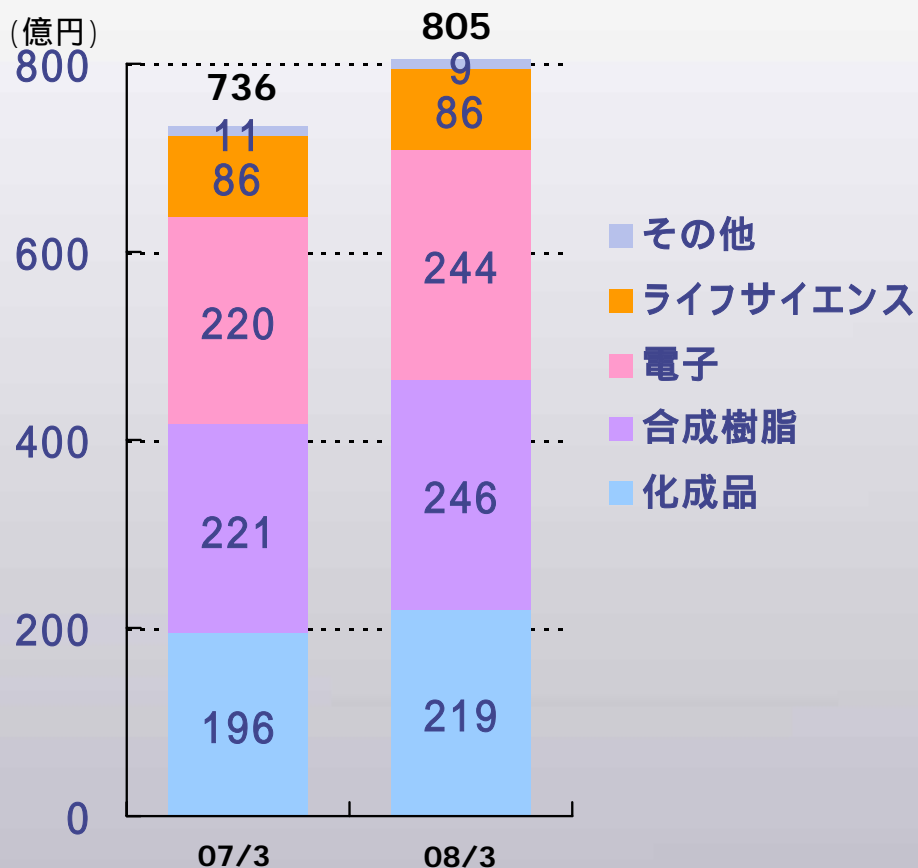


事業セグメント別の売上概況 (前年比較)

- 化成品 + 207億円 (108%)**
 ナガセケムテックス㈱製の液晶関連材料が好調
 自動車業界向けウレタン原料、塗料原料が増加
 樹脂原料・添加剤関連など機能化学品事業好調
 色材事業は横ばい
- 合成樹脂 + 299億円 (112%)**
 自動車関連は全地域で好調
 電子機器用樹脂はGチャイナ、アセアンでいずれも増加
 メディア用機能性樹脂は減少
- 電子 + 130億円 (109%)**
 ナガセケムテックス㈱製の薬液や変性エポキシ樹脂等が堅調
 液晶ディスプレイ関連では、液晶モジュールは減少したが、液晶用部材加工、電子機器用アルミ外装材加工等が大幅拡大、光学フィルムも増加
 半導体等の精密研磨関連ビジネス、半導体後工程用封止材が好調、ハードディスク用基板も増加
- ライフサイエンス + 29億円 (105%)**
 医薬原料・中間体は好調、発酵生産物関連は微増
 ビューティケア事業は主力商品のリニューアル増はあったが既存品が伸び悩み
- その他 32億円 (37%)**
 前年下期にDVD映画ソフトなど一般消費者向け直接販売事業譲渡、今年度ポータブルDVDプレーヤー回収の影響あり

事業セグメント別 売上総利益

805億円 前年比 109% 68億円増加

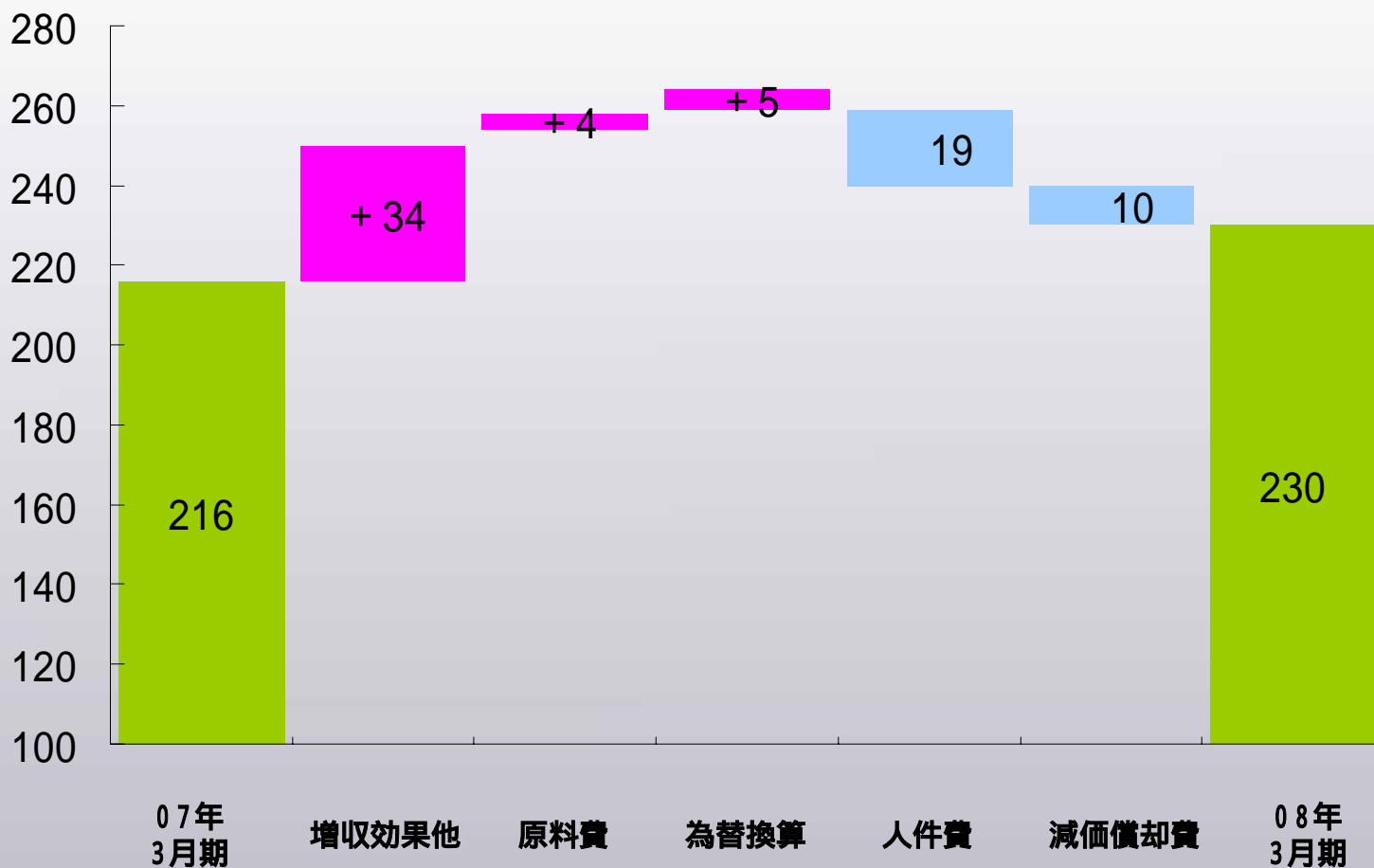


事業セグメント別 売上総利益概況 (前年比)

化成品	+ 22億円 (111%)
合成樹脂	+ 24億円 (111%)
電子	+ 24億円 (111%)
ライフサイエンス	+ 0億円 (100%)
その他	2億円 (80%)

営業利益 増減要因

(億円)

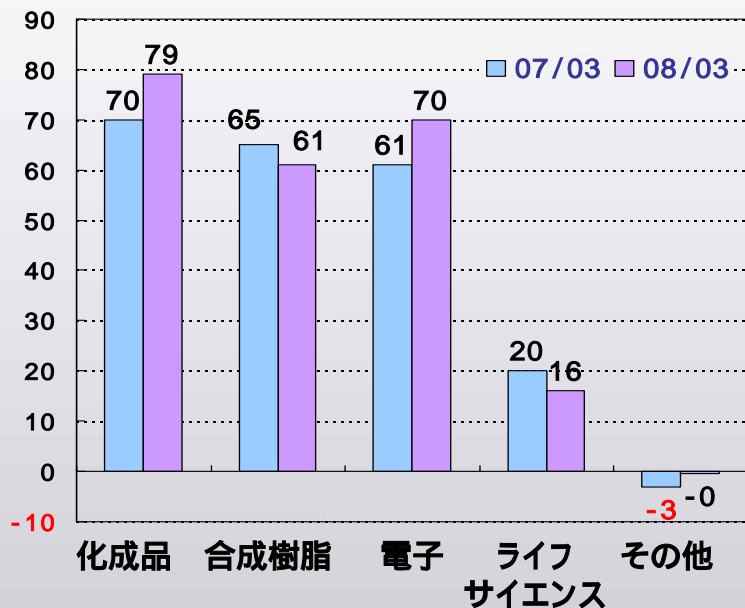


営業利益

230億円 前年比106% 13億円増加

(億円)

< 事業セグメント別 営業利益 >



化成品は単体2億円の減益だが、ナガセケムテックスおよび海外での増益で全体9億円の増益。

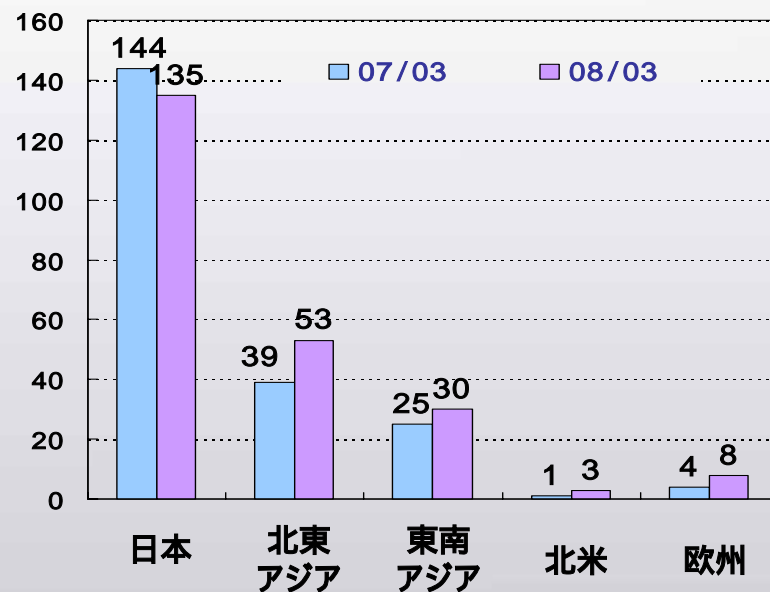
合成樹脂は国内9億円の減益、海外は北東アジア微減だが、東南アジアの増益で5億円の増益。全体で4億円の減益。

電子は国内は4億円減益、海外は北東アジアの好調、新規連結による増益により13億円の増益。全体で9億円の増益。

ライフサイエンスは単体・ナガセケムテックス減益。全体で4億円の減益。

(億円)

< 所在地別 営業利益 >



国内は、単体の人件費の増により減益

北東アジアは、化成品・電子の増益幅が大きく全体に利益を牽引

東南アジアは合成樹脂は増益

営業外損益・特別損益

< 営業外損益 >

(単位:億円)

	0 8 / 3	0 7 / 3	増減	前年比
営業外損益	17	15	+ 1	113%
金融収支	4	6	1	76%
その他	12	9	+ 3	138%

< 特別損益 >

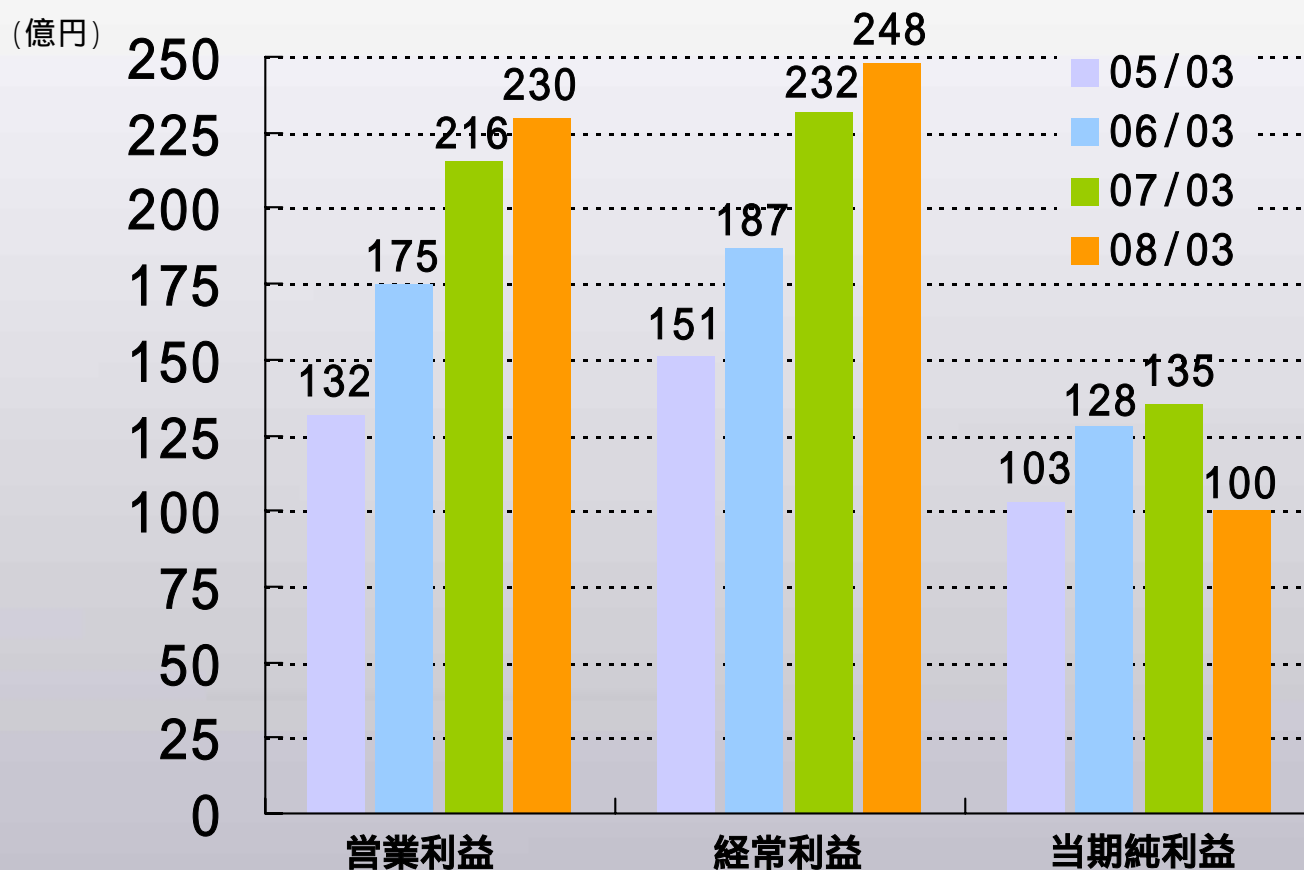
(単位:億円)

	0 8 / 3	0 7 / 3	増減
特別利益	26	3	+ 22
固定資産売却益	0	0	0
投資有価証券売却益	26	2	+ 23
特別損失	72	4	+ 67
商品自主回収関連費用	64	-	+ 64
その他	7	4	+ 2

經常利益・当期純利益

◆經常利益：248億円 前年比107% 15億円増加

◆当期純利益：100億円 前年比74% 35億円減少



主な貸借対照表の増減

運転資金増加(前期末休日要因によるものと、増収および一部立替期間の長い取引の増加)
 投資有価証券減少 255億円(時価評価額の減少)と評価・換算差額等の減少 136億円 (単位:億円)

(資産)	08/3	07/3	増減	(負債及び純資産)	08/3	07/3	増減
現金及び預金	234	219	+15	支払手形及び買掛金	1,348	1,414	65
受取手形及び売掛金	2,318	2,180	+137	短期借入金	243	142	+101
棚卸資産	429	433	4	商品自主回収引当金	5	-	+5
その他流動資産	113	82	+30	その他流動負債	241	214	+27
有形固定資産	358	318	+40	長期借入金	89	62	+27
無形固定資産	33	29	+4	退職給付引当金	66	68	1
投資有価証券	625	880	255	その他固定負債	118	209	90
その他固定資産	84	83	+1				
				株主資本	1,800	1,709	+90
				(うち自己株式)	(53)	(54)	(+0)
				評価・換算差額等	205	341	136
				新株予約権	1	1	+0
				少数株主持分	76	64	+11
				(自己資本比率)	(47.8%)	(48.5%)	(0.7%)
資産合計	4,198	4,228	29	負債及び純資産合計	4,198	4,228	29

キャッシュフローの状況

運転資金の増加、回収関連費用 や法人税等により営業キャッシュフローは25億円の支出。
有形・無形の固定資産取得や投資有価証券の取得・売却により、投資活動によるキャッシュフローは70億円の支出。運転資金需要及び今後の投資支出に充てるため、長・短期借入等により資金調達。

回収関連費用支出：59億円の支出。

(単位:億円)

	08/03	主な内訳	07/03
営業活動による キャッシュ・フロー	25	税前利益 202億円 減価償却費 51億円 運転資金 187億円 法人税等の支払額 76億円 投資有価証券等売却損益 23億円 等により	108
投資活動による キャッシュフロー	70	有形固定資産の取得 73億円 投資有価証券の取得 25億円 投資有価証券の売却 44億円 無形固定資産の取得 16億円 等により	52
財務活動による キャッシュ・フロー	107	短期借入金の増加 62億円 長期借入による収入 59億円 配当金の支払 13億円 等により	84
現金及び 現金同等物の増減	15	手元流動性の積増し 10億円、新規連結による増 4億円	0
現金及び 現金同等物の期末残高	234		219

主な連結子会社の業績

(単位:百万円)

	社名	売上高	前年比	営業利益	前年比	当期利益	前年比
単体	長瀬産業	522,260	105%	7,292	88%	2,728	35%
製造会社	ナガセケムテックス	27,521	112%	3,051	108%	1,587	99%
	東拓工業	7,475	98%	532	81%	420	89%
販売会社	ナガセプラスチックス	15,210	117%	74	92%	28	68%
	ナガセケミカル	15,031	110%	225	100%	111	100%
	長瀬カラーケミカル	13,557	99%	176	99%	76	84%
海外	ナガセ香港	77,566	130%	1,592	117%	1,338	117%
	ナガセタイランド	35,984	132%	1,635	143%	1,156	140%
	ナガセシンガポール	35,634	108%	598	82%	563	80%

2009年3月期業績見通し

2009年3月期 業績見通し

◆為替変動、退職給付会計と大型投資による減価償却負担の影響で営業利益、経常利益は7期ぶりの減益を予想

(単位:億円)

	09 / 03 予 想	08 / 03 実 績	増 減	前 年 比
売 上 高	7,700	7,647	+ 52	101%
売上総利益	819	805	+ 13	102%
営 業 利 益	210	230	20	91%
年金数理計算上の差異 の償却を除く営業利益	(231)	(232)	(0)	(100%)
経 常 利 益	220	248	28	89%
当期純利益	130	100	+ 29	130%

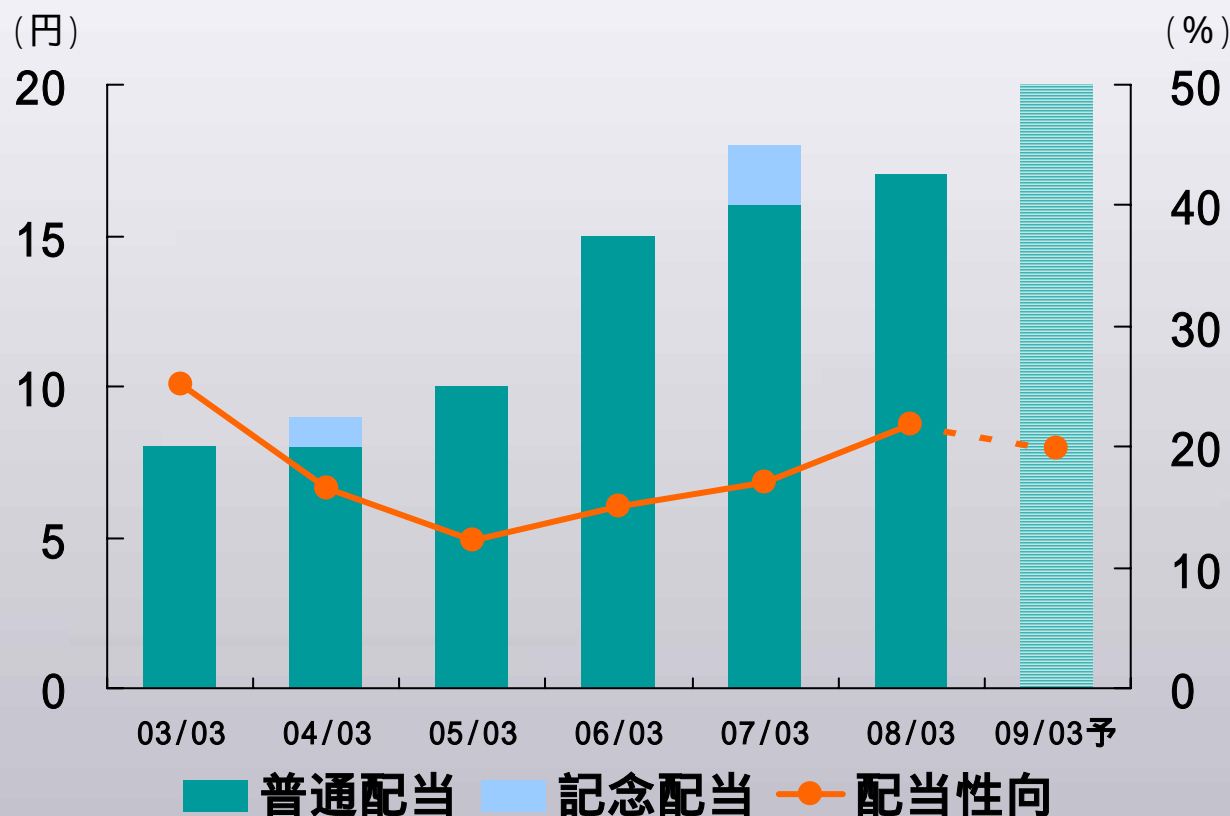
2009年3月期 事業セグメント別売上高見通し

(単位:億円)

	09 / 03 予想	08 / 03 実績	前年比	見通し
化成品	2,720	2,678	102%	・自社グループ製品拡販 ・アジア地域の売上拡大
合成樹脂	2,770	2,746	101%	・自動車関連用途は引続き好調 ・精密機器・電子機器は販売減少
電子	1,595	1,638	97%	・ディスプレイ関連用途の減少 ・大型投資の効果は11/03期以降
ライフサイエンス	598	564	106%	・医薬品原料、中間体の拡大
その他	17	19	88%	
合計	7,700	7,647	101%	

配当政策

企業体質の一層の充実強化と収益力向上を図りながら、将来の成長に向けた中長期的な資金需要を勘案しつつ、安定的な配当の継続に努めることを基本方針としております。



中期経営計画 「WIT2008」最終年度へ向けて

知恵をビジネスにする技術・情報企業

W ---- *Wisdom*

I ---- *Intelligence*

T ---- *Technology*

中期経営計画「WIT2008」の位置づけ

変革

WIT2000

- 経営基盤変革
- グループ経営開始

推進

WIT21

- 事業方向性の明確化
- 事業基盤の強化
- 経営基盤の強化

拡大・強化

WIT2008

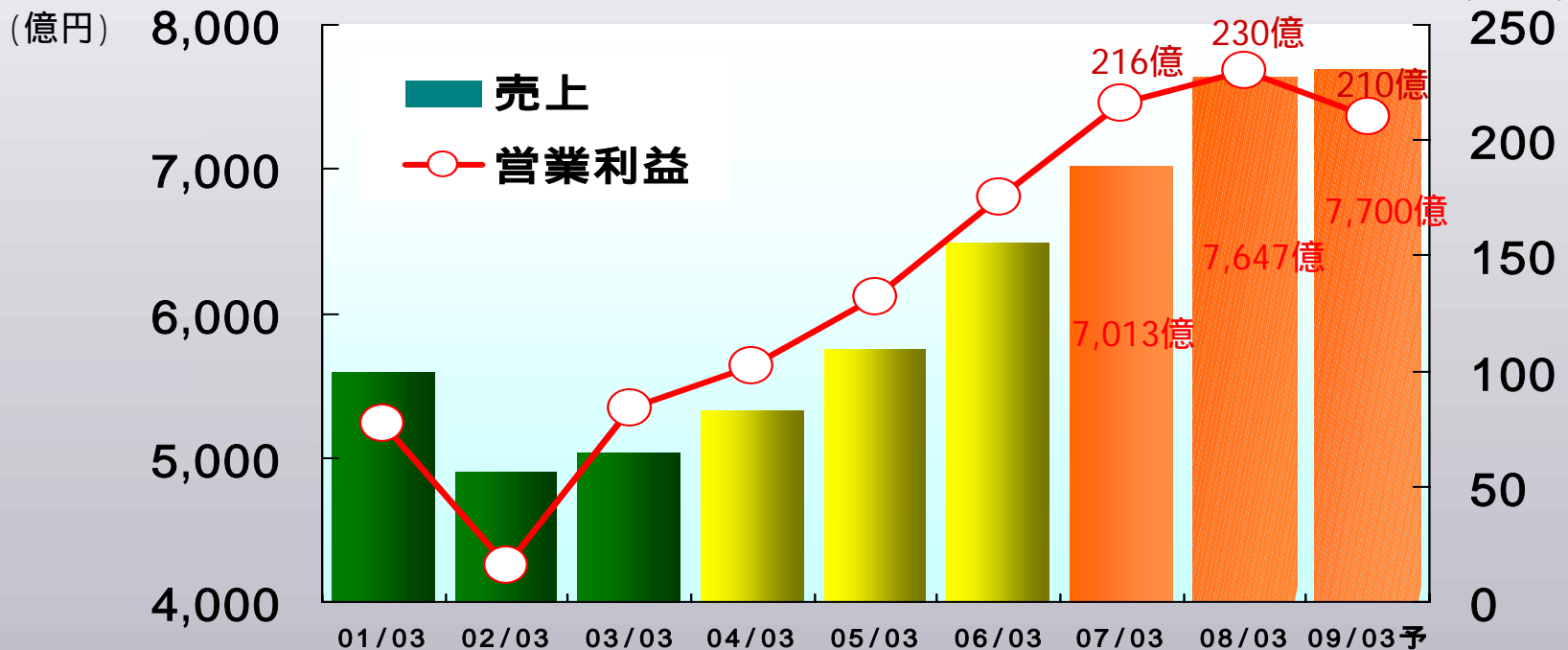
- 体質強化
- ナガセらしさの継承
- 事業ポートフォリオ戦略の深化

投資額

202億円

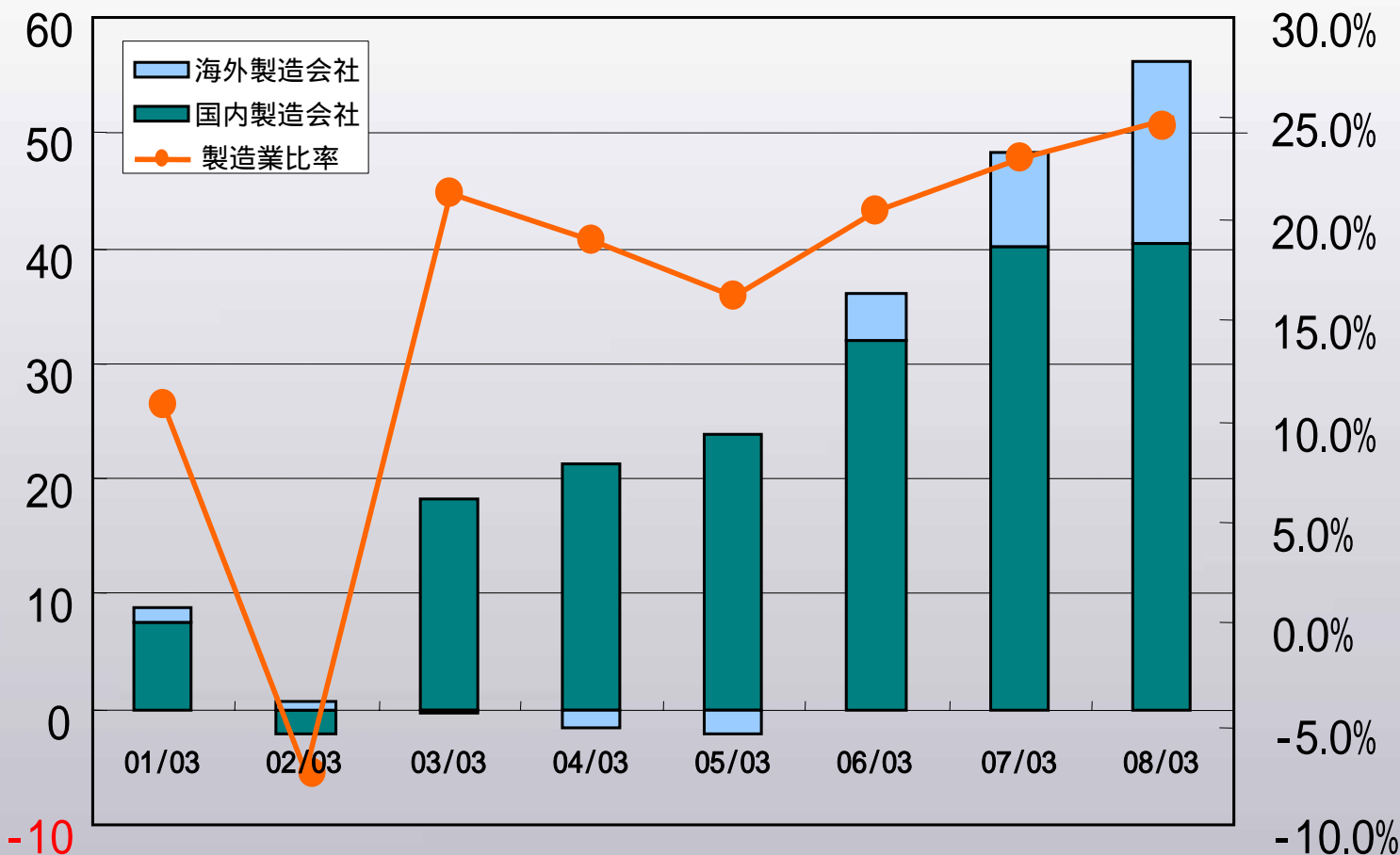
237億円

300億円



製造業の占める割合（営業利益）

単位：億円



中期経営計画「WIT2008」基本戦略

持続的成長への体質強化

重点分野への積極投資

事業基盤の拡大

高収益への構造転換

事業ポートフォリオ戦略の深化

健全な財務体質の維持

連結経営体制の整備

リスクマネジメントの徹底

内部体制の強化

現場主義

人材の(質・量)充実

技術・情報力の強化

ナガセらしさの継承

「WIT2008」主な施策（1）

■事業基盤の拡大：アジア地域での存在感を高める

- ・中国の繊維関連事業を統括する合弁会社を設立
（会社名：オー・エヌ・コラボ(株) 長瀬産業(株)50%、オー・ジー(株)50%出資、07年11月設立）
- ・ベトナムで販売会社設立のためのライセンス取得（現地法人設立へ）
- ・ベトナムでの合成樹脂着色事業の合弁会社の第二工場建設進行中

■重点分野への積極投資：3年間で300億円の投資

【電子】

- ・ナガセケムテックス(株)と共同で、大型液晶パネル薬液の生産・リサイクル工場の建設決定
（08年前半着工予定、投資額 約90億円）
- ・半導体液晶パネル用現像液の原料リサイクルをアジアで行なう合弁会社を設立
（会社名：SN Tech(株)
セイケムアジア 65%、長瀬産業30%、ナガセケムテックス 5%出資、08年1月設立）

【ライフサイエンス】

- ・特定の遺伝子発現レベルを制御する技術(RNA干渉)を持つベンチャー企業(iGENE社)を買収
～ 高付加価値の創薬ツール・サービス事業として創薬支援ビジネスを構築

「WIT2008」主な施策（2）

■高収益への体質改善：ナガセ独自のビジネスによる利益率改善と事業再編

【ナノテク事業の強化・拡充】

- ・ナノテクノロジー関連の米国ベンチャー企業(ナノグラム社)に投資
- ・光学フィルム等に応用可能なナノスケールの無機複合材の製造装置新設

【事業再編】

- ・アルファバンピングテクノロジー(半導体ウェハの受託加工)を清算

■健全な財務体質の維持

- ・キャッシュフロー重視、営業キャッシュフロー改善
- ・資産の見直し継続

■連結経営体制の整備

- ・グレーターチャイナマネジメントオフィスの新設による地域一体運営体制の構築

■人材の質・量の充実

- ・「多様性」と「専門性」の確保と育成
外国人幹部の育成強化研修プログラムの実施

「WIT2008」主な施策（3）

■ リスクマネジメントの徹底

- ・事業構造の転換に伴う新たなリスクの認識・把握・抑制
- ・製造業ビジネスと輸入品の管理体制強化のため「品質・環境管理室」を新設

内部統制システムの強化・徹底

「コンプライアンス委員会」を「リスク・コンプライアンス委員会」に改編
～ 総合リスクマネジメント体制の構築 ～

様々な種類のリスクを総合的に認識・把握し、抑制

法令遵守のみならず、企業倫理にまで踏み込む

～ 「誠実に正道を歩む」 ～

「WIT2008」で成果を挙げる”ナガセらしさ”

技術情報商社としてのナガセのDNA
～ スペシャリティのある特異な専門商社 ～

事業の選択と集中
～ 強みを発揮できる分野の徹底的な問い直し ～

事業ポートフォリオの深化

連結体制による協業強化



エレクトロニクス用薬液ビジネスに結実
～ シャープ「21世紀型コンビナート」への進出 ～

ポスト「WIT2008」に向けた展開

シャープ「21世紀型コンビナート」への進出
～ 製造機能と商社機能の融合モデル ～

執行役員
電子化学品事業部長

伊藤 富隆

エレクトロニクス用薬液ビジネスの源流

<事業セグメント>

化成品

電子部品

<組織体制>

1960

感光性材料

長瀬産業

半導体用
フォトレジスト

製造機能に進出

1980

フォトレジスト製造 (82年~88年)

ナガセ化成
(82~)

ナガセ電子化学
(87~)

- ・レジストのコンバージョン
- ・フォトレジストの粘度調整、小分け・精密濾過

現像液

剥離剤

強みを活かして
自社製品を転換

1990

CMS装置を追加

ナガセ
R&Dセンター
(90~)

製造機能の中核

ナガセケムテックス
(2001~)

2000

半導体から
液晶分野へ拡がり

- ・プロセス中の薬液管理
- ・製品歩留まりの向上に寄与
- ・リユース、リサイクルまで

管理システムの提案

大規模投資の実現

エレクトロニクス用薬液ビジネスの強み

～ 製造機能と商社機能の融合モデル～

薬液製造販売と工程管理の両方を担える日本唯一の企業



- 自社製品の現像液、剥離剤の競争力(技術的な裏づけ)が背景
 - ・日本はもとよりアジアのメーカーの勃興の機会を捉えて成長
- プロセスノウハウを熟知したソリューション提案
 - ・薬液提供から、工程管理システム、リユース、リサイクルまでの一貫提案
 - ・環境対応技術を核とした戦略を構築
- 海外でも展開
 - ・液晶生産拠点の拡がりとともに、韓国、台湾、中国、シンガポールでも展開実績

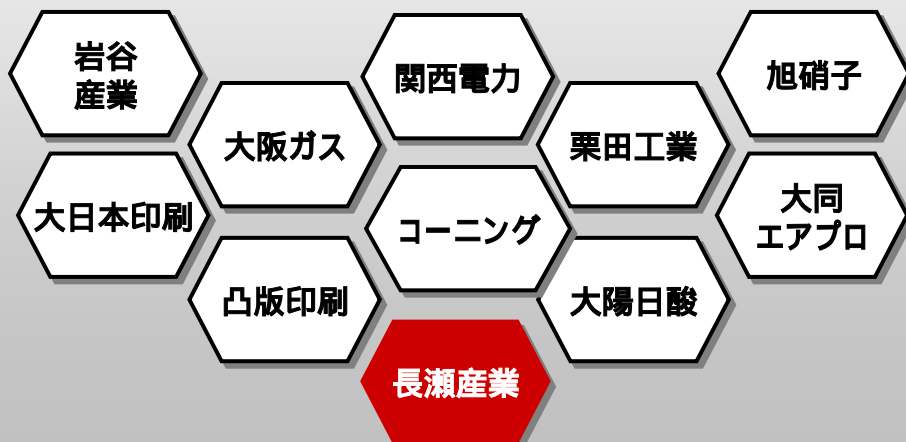
シャープ「21世紀型コンビナート」概要

シャープ「21世紀型コンビナート」
(大阪府堺市、敷地面積127万㎡(38.5万坪))

液晶パネル
工場

薄膜太陽電池
工場

関連するインフラ施設や有力部材・装置メーカー群が立地



「21世紀型コンビナート」の思想

■企業の垣根を超えた垂直統合型の事業展開

… 物流コスト削減、生産計画などのオペレーションの一元化

■立地企業間の緊密な連携

… 知識やノウハウの融合による技術革新

■ガスや電気などインフラの共用化

… 生産性向上

< 液晶パネル工場の概要 >

- 稼動開始: 2010年3月までに
- マザーガラスサイズ: 第10世代
(2,850mm × 3,050mm)
- 主な生産品目: 40型・50型・60型クラスの大型テレビ用液晶パネル
シャープ66%、ソニー34%

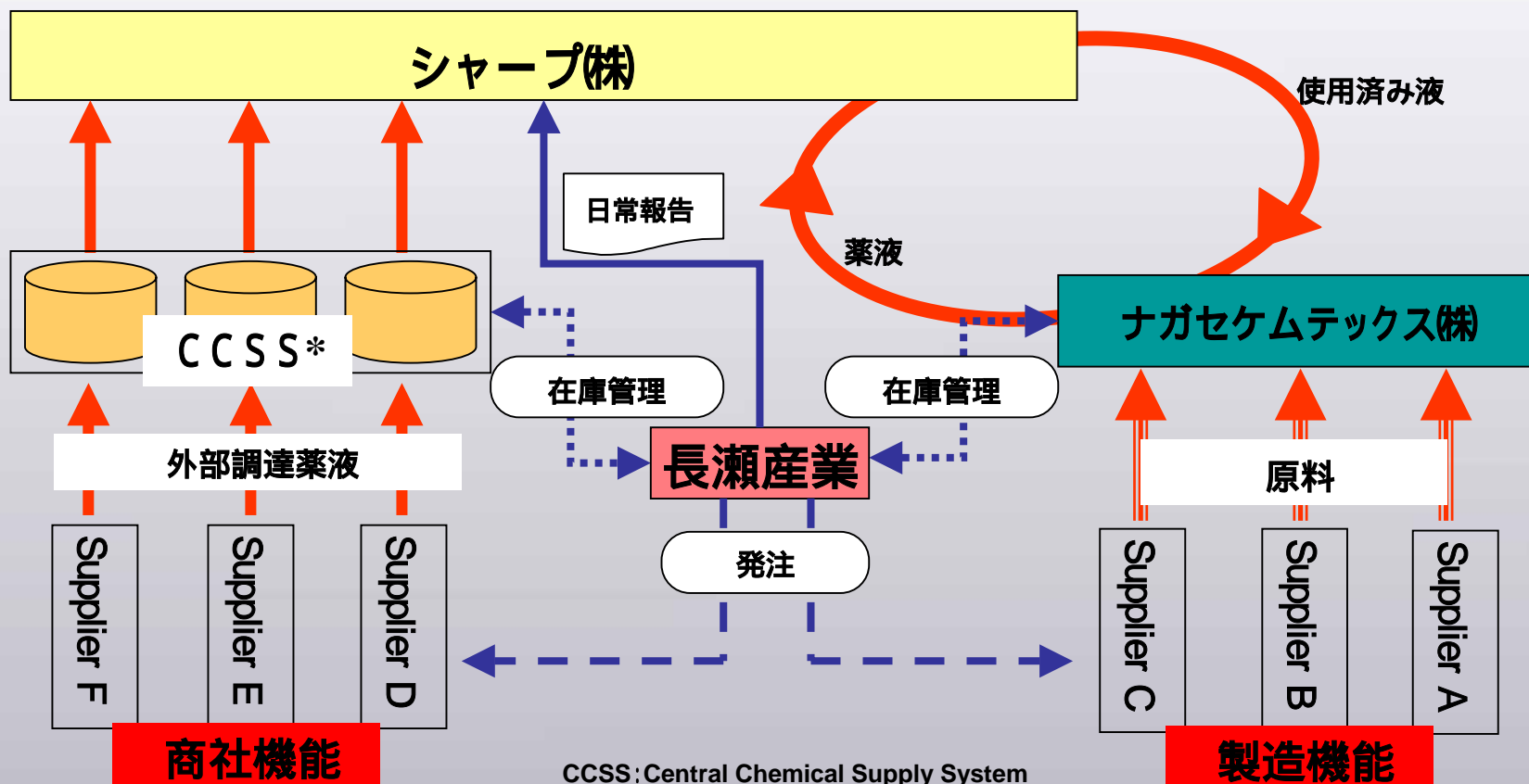
シャープ「21世紀型コンビナート」で果たす機能

現像液、剥離液、エッチャント、洗浄剤等の供給にとどまらず
 関連薬液全般の管理システム、リサイクルまで
一貫して手がける体制 (ゲートチェッカー的な機能)

投資額 90億円(3年間)、2010年3月までに稼動開始

薬液、原料の大幅削減
 循環型工場として環境面

に貢献



長瀬グループの今後の方針

< ナガセケムテックス(株) >

環境配慮型薬液の開発

- ・ロングライフ薬液
- ・易リサイクル性薬液
- ・PRTR対応薬液
- ・リサイクル技術の拡充(対象:全ての薬液)

高機能型ケミカルの開発

- ・特殊レジスト(液晶、太陽電池、TAB)

< ナガセシイエムエステクノロジー(株) >

薬液管理装置のシステムアップによる 省薬液プロセスの確立

- ・遠隔監視型管理装置
- ・レジスト現地混合システム
- ・簡易リサイクルシステム

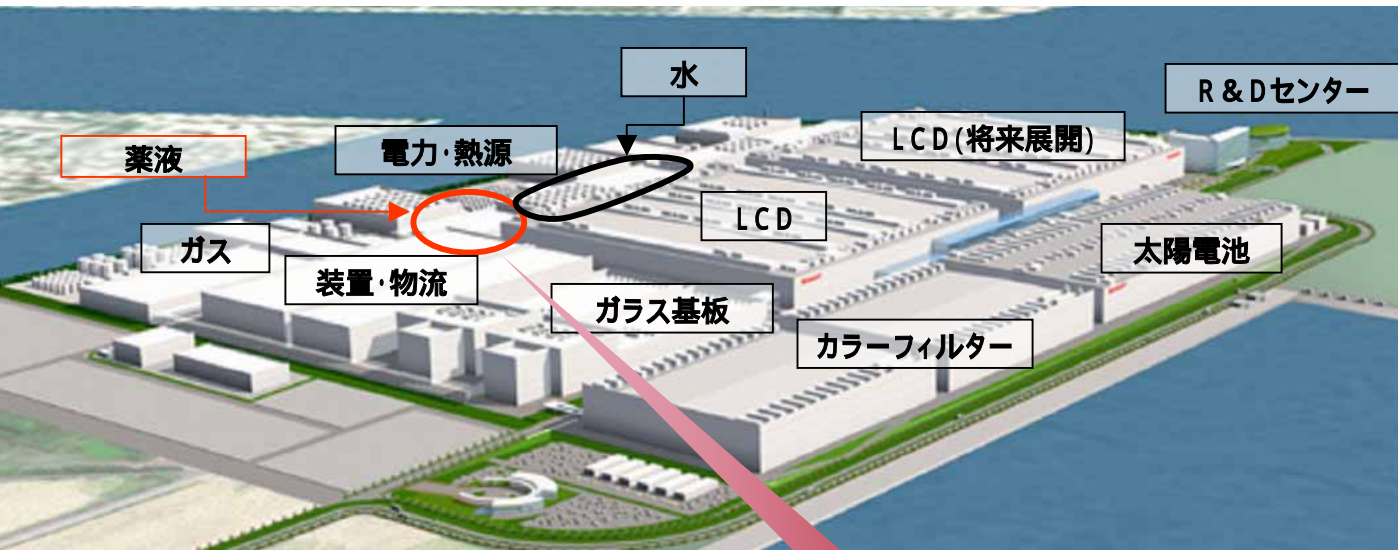
< 長瀬産業(株) >

液晶業界における薬液製造・リサイクル・プロセス革新の全ての機能を
1社で果たす事が出来る世界唯一の企業となる

技術に立脚したビジネスモデルにより、液晶業界の継続的发展に貢献する
- 環境に優しい液晶パネルを環境に優しく生産する

グローバルなビジネスを展開する(液晶産業があるところには、いつでも長瀬)

シャープ「21世紀型コンビナート」外観図



21世紀型コンビナート(最終完成予想図)



長瀬グループのケミカルプラント(最終完成予想図)

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2008年5月15日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。